教養演習 I	
教授　早坂　七緒	
1 年次（情報以外）、2 年次（情報）	総合教育科目 2 群

【履修条件】
とくになし。予備知識がなければ、新鮮な感動を覚えることができる。この意味では、無知は貴重な宝である。楽器の演奏ができる、合唱やバンドの経験がある、などの人は、オペラにも入りやすいことは確か。

【科目の目的・到達目標】
著名なオペラ、オペレッタのあらすじ、アリアなどに親しみ、ある程度の知識を得ること。登場人物の心の葛藤を理解する能力が身についていること。実際の人生で重要な役割をもつ、愛や憎悪、嫉妬や殺意について、ある程度の予備知識をもち、オペラを活用して語ることができるようになることが一応の目標である。各履修者は「あらすじ」レポートのやりとりの際に、日本語による要約の仕方など添削を受けることにより、レポート作成技術を研磨する。学期末レポートも教師が添削して戻すので、日本語の能力の向上を図ることができる。

【授業の概要】
総合芸術、芸術の華といわれるオペラと、その「陽気な妹」オペレッタに親しみ、人間の心理と運命を考える一助としたい。授業は演習形式で行なう。対象作品の一幕ごとにレポーターを決め、前々日までにストーリーを要約したレポートを教員にメール添付で提出、教員がそれにコメントを加えて返送し、さらにレポーターが見解を記入して提出する。その資料を手がかりとしてゼミを進める。教師・学生の双方から疑問点を出し合い、ディスカッションする。録画ビデオ（DVD など）を活用する。受講生の積極的な参加によって、作品の意外な側面が明らかになることもある。自己表現やディベートの訓練も含まれる。

【授業計画】
第 1 回　概要紹介。分担決め。『ラ・ボエーム』一幕。
第 2 回　『ラ・ボエーム』一幕。当時のパリの状況。
第 3 回　『ラ・ボエーム』二幕。ミュルジェの原作について。
第 4 回　『ラ・ボエーム』二幕～三幕。
第 5 回　『ラ・ボエーム』三幕。まとめとディスカッション。
第 6 回　『マリツァ伯爵夫人』紹介、一幕。
第 7 回　『マリツァ伯爵夫人』二幕。当時のハプスブルクとハンガリーについて。
第 8 回　『マリツァ伯爵夫人』二幕～三幕。
第 9 回　『マリツァ伯爵夫人』三幕。まとめとディスカッション。
第 10 回　世界のオペラ劇場、観劇のエチケットについて。
第 11 回　『蝶々夫人』一幕。
第 12 回　『蝶々夫人』一幕～二幕。大山公使と日露戦争について。
第 13 回　『蝶々夫人』二幕～三幕。
第 14 回　『蝶々夫人』三幕。まとめとディスカッション。
第 15 回　前期のまとめ。レポートの書き方の指導。

【評価方法】
演習の際にレポーターが提出する「あらすじ」および教員のコメントにたいする回答について、Max 10 点の平常点がつく。ゼミ中のディスカッションの発言内容も考慮する。欠席は好ましくない。学期末に提出するレポートの評価が基本。データをまとめるのではなく、自分で問題点を見つけて、考究したものを評価する。レポートに「早坂コメント」をつけて返送するので、指摘された点をよく検討して再提出すること。

【テキスト・参考文献等】
オペラの「あらすじ」は各回ごとに教員が配布する。対訳台本は、レポーターにのみ、教員が貸与するか、各自図書館などで入手する。教材のビデオは、毎回、教員がレポーターに貸与する。　参考書：音楽の友社「名作オペラブックス」（理工学部図書館にもある）ほか、授業で紹介する。

【授業外の学習活動等】
二期会などの公演の学生券（2,000 円）を活用して活きた舞台に親しむこと。レポーターは作品をよくみて自力で「あらすじ」を書いて提出するように。教員からコメントつきの「あらすじ」が返送されるので、さらに自分の意見を記入すること。履修者は時間前に配信される「あらすじ」レポートをよく読んで準備すること。自分の担当する幕だけでなく、前後の幕も見ておくこと。

【その他特記事項】
最近の傾向として、世界史、地理などをよく学習していない学生が散見される。必要に応じて教師が予備知識をあたえる。
早坂のホームページの「授業」→「オペラとオペレッタ」から、これまでのレポートの例を読むことができる。
http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~nanaocor/
「あらすじ」レポートが前日までに完成した場合は Manaba に掲載するので、各自プリント・アウトを持参するように。
全作品の楽譜（Klavierauszug）は早坂研究室にある。必要に応じて貸与する。

【参考 URL】
早坂のホームページは
http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~nanaocor/
早坂のメール・アドレスは
hayasaka@kc.chuo-u.ac.jp

教養演習Ⅱ	
教授　早坂　七緒	
1 年次（情報以外）、2 年次（情報）	総合教育科目 2 群

【履修条件】
前期に教養演習 I を履修しているのが望ましい。ドイツ語、フランス語、できればイタリア語の知識があればなおよい。

【科目の目的・到達目標】
前期である程度親しんだ、ドラマを構成する人間関係や、登場人物それぞれの情熱などについて、理解を深める。著名な作曲家、指揮者、歌手についても、ある程度の知識を身につける。人生で遭遇する、愛や憎悪、嫉妬や殺意について、オペラを活用して語ることができるようになることが一応の目標である。また各回の「あらすじ」レポート、期末のレポートの添削等により、文章の組み立て方、日本語の正確な使い方の訓練も行なう。

【授業の概要】
授業は演習形式で行なう。DVD を部分的に鑑賞し、要所でディスカッションを行う。教員と担当するレポーターを中心に進める。複数の上演記録を用いて演出の違いや、解釈の違いをテーマとするなど、徐々に高度なオペラ鑑賞のありかたを勉強する。作品のそれぞれ 1 幕、2 幕等についてレポーターが「あらすじ」レポートを作成し、教員がコメントを付して返送する。受講生は折りに触れて、自己表現として歌唱、楽器演奏などを披露することができる。広い意味でのリベラル・アーツ修練の場でもある。

【授業計画】
第 1 回　概要紹介。分担決め。前期レポート紹介。『椿姫』一幕。
第 2 回　『椿姫』一幕。デュマ・フィスについて。
第 3 回　『椿姫』一幕～二幕前半。
第 4 回　『椿姫』二幕後半。マリー・デュプレシについて。
第 5 回　『椿姫』三幕。まとめとディスカッション。
第 6 回　『こうもり』一幕。レポーター分担決め。
第 7 回　『こうもり』一幕～二幕。ウィーンについて。
第 8 回　『こうもり』二幕～三幕。ヨハン・シュトラウスについて。
第 9 回　『こうもり』三幕。まとめとディスカッション。
第 10 回　オペラ座について。観劇のエチケット。
第 11 回　『トスカ』紹介、一幕。レポーター分担決め。
第 12 回　『トスカ』一幕～二幕。ローマについて。
第 13 回　『トスカ』二幕。
第 14 回　『トスカ』三幕。まとめとディスカッション。
第 15 回　授業評価、到達度の確認。レポートの書き方指導。

【評価方法】
演習の際にレポーターが提出する「あらすじ」および教員のコメントにたいする回答について、Max 10 点の平常点がつく。ゼミ中のディスカッションの発言内容も考慮する。欠席は好ましくない。学期末に提出するレポートの評価が基本。データをまとめるのではなく、自分で問題点を見つけて、考究したものを評価する。レポートは「早坂コメント」をつけて返送するので、指摘された点をよく検討して再提出すること。

【テキスト・参考文献等】
「作品のあらすじ」は各作品ごとに教員が配布する。対訳台本は、レポーターにのみ、教員が貸与するか、各自図書館などで入手する。教材のビデオは、作品ごとに教員がレポーターに貸与する。　参考書：音楽の友社「名作オペラブックス」（理工学部図書館にもある）ほか、授業で紹介する。
なお全作品の楽譜（Klavierauszug）は早坂研究室にある。必要に応じて貸与する。

【授業外の学習活動等】
二期会などの公演の学生券（2,000 円）を活用してナマの舞台に親しむこと。「あらすじ」レポーターは、作品ソフトをよく見て自力で「あらすじ」を書いて提出、教員のコメントを受けて、さらに考えを記すように。担当幕だけでなく、前後の幕も見ておくこと。履修者は時間前に Manaba に配信される「あらすじ」レポートを読んで準備すること。

【その他特記事項】
世界史、地理などの人文系の学習が不十分な学生には、必要に応じて教師が予備知識を与える。　早坂のホームページの「授業」→「オペラとオペレッタ」から、これまでのレポートの例を読むことができる。
http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~nanaocor/

【参考 URL】
早坂のホームページは
http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~nanaocor/
早坂のメール・アドレスは
hayasaka@kc.chuo-u.ac.jp